

第4章 特定都市下水道の整備に関する事項

下水道管理者は、図 4.1 に示す区域において、都市浸水の発生を防ぐべき目標降雨に対する浸水解消のため、特定都市下水道の整備を行う。

なお、整備にあたっては、下水道の貯留浸透施設に加え下水道以外の雨水貯留浸透施設も考慮し、地域全体での雨水流出抑制に取り組んでいくものとする。

表 4.1 に特定都市下水道の整備概要を示す。表中、「整備予定区域面積」「下水道調整池容量」「下水道雨水ポンプ場排水能力」については、下水道管理者が概ね 30 年間に整備する数値を、「河川等への放流量」は、「都市浸水の発生を防ぐべき目標となる降雨」が発生した場合の数値を示す。

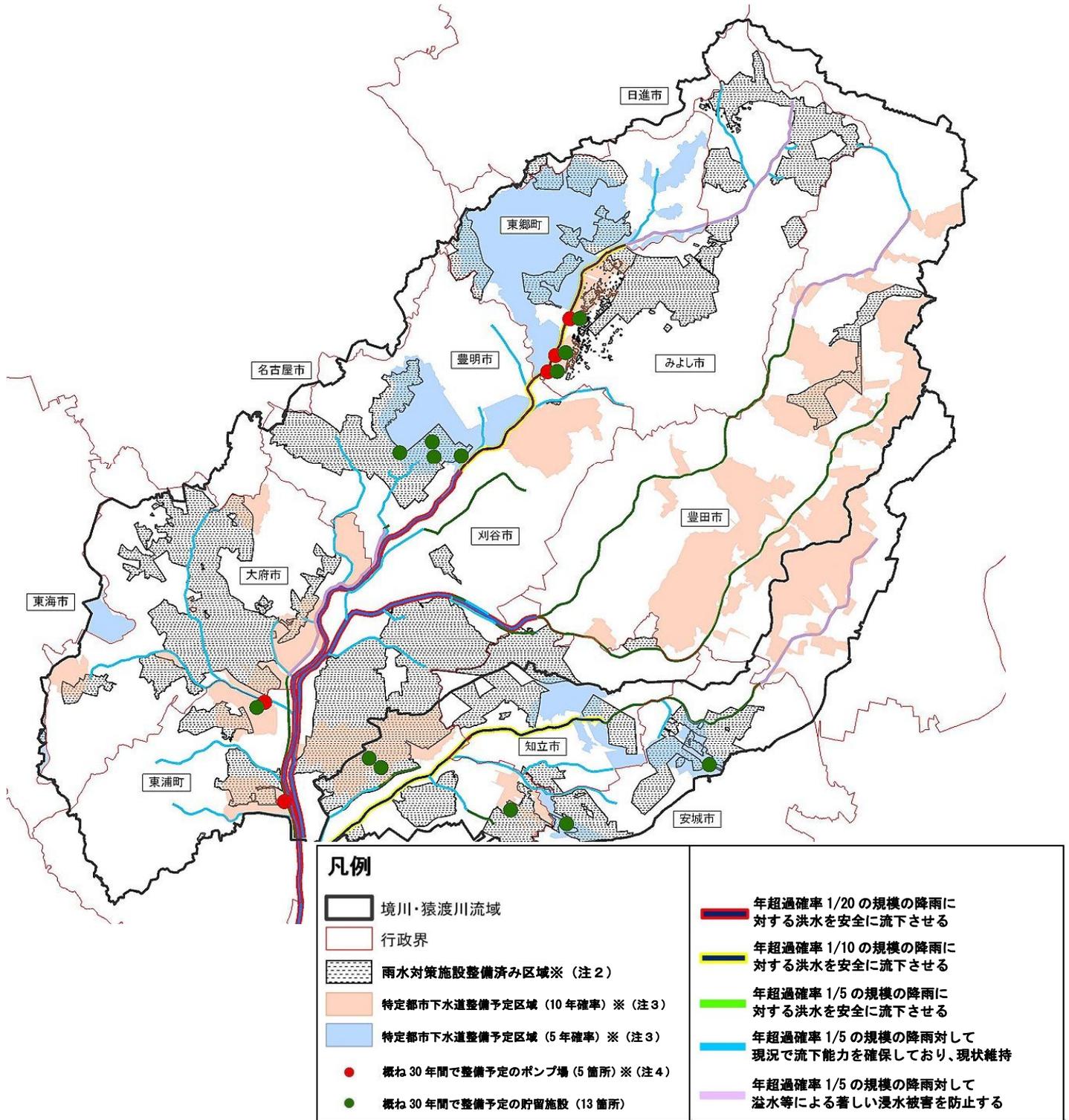
表 4.1 特定都市下水道の整備概要

	概ね 30 年間の 整備予定区域 面積(ha)	河川等へ の放流量 (m ³ /s)	下水道調整池 容量 (m ³)	下水道雨水 ポンプ場排水 能力(m ³ /s)
流域合計	3,172	1,607	32,760	20.6
名古屋市	0	0	0	0.0
刈谷市	545	247	13,800	0.0
豊田市	895	285	0	0.0
安城市	190	89	7,690	0.0
東海市	67	12	0	0.0
大府市	238	345	0	0.0
知立市	168	115	0	0.0
豊明市	269	111	3,670	0.0
日進市	0	3	0	0.0
みよし市	43	224	1,400	15.1
東郷町	564	133	0	0.0
東浦町	193	44	6,200	5.5

※(注1) 上記は平成 21 年度末時点の整備概要である。

※(注2) 河川等への放流量は、概ね 30 年間の整備予定区域を含む排水区の 30 年後の数値を示す。

※(注3) 下水道調整池容量は、現時点で最も実現可能な位置に貯留施設を設けた場合の量を示しており、今後の実施にあたり、施設位置の変更や貯留施設の統合等を行うことにより、必要な貯留量が異なることがある。



※(注1) 上記は平成 21 年度末時点の整備概要である。

※(注2) 「雨水対策施設整備済み区域」は年超過確率 1/5 の規模の降雨が発生した場合の平成 23 年度末時点の整備済み区域を示す。

※(注3) 市町の雨水排水は、下水道(公共下水道や都市下水路)のほか、市町が管理する法定外水路、農業用排水路などによって行われている。「特定都市下水道整備予定区域」は、概ね 30 年の間にこれらの改修や増強、雨水調整池の整備を「下水道事業」で行うことにより、都市浸水に対する安全度を現在よりも向上させる区域を示す。特定都市下水道整備予定区域には、施設の機能向上に伴う再整備を含む。

※(注4) 「整備予定のポンプ場」における「整備予定」とは、ポンプの増設を含むものとする。

図 4.1 特定都市下水道整備予定区域